

**認知症高齢者グループホーム及び小規模多機能施設の
実態調査について**

独立行政法人福祉医療機構

福祉貸付部

はじめに

本報告書は、平成20、21年度独立行政法人福祉医療機構の融資制度を利用し、認知症高齢者グループホーム及び小規模多機能施設を整備した事業者を対象に実態調査を行い、回答結果を取りまとめたものです。

認知症高齢者グループホームは、介護保険制度で「痴呆対応型共同生活介護事業」として位置づけられ、以降事業者が急増している状況です。しかし、この急増の影には、事業者間のサービスの質の格差、火災事故、事業者指定取り消し等の現状もあります。

また、平成18年度から開始された地域密着型サービスのうち、新しいサービス形態である「小規模多機能型居宅介護」については、利用者数が伸び悩んでいる状況であります。

このような情勢の中、建築関係に関すること、事業者の経営実態、入居者本人の満足度、家族の意識、現場スタッフのやりがい、労働環境等、居住性と事業性の両方のバランスを見ながら在宅に近い環境で、入居者一人ひとりの個性や生活リズムを尊重すると同時に他者との人間関係をも築きながら日常生活を営めるように介護できることが重要です。

今回、開設してから1～2年の事業運営が軌道に乗り始めるまでの状況がどのように推移しているのか、また、ハード・ソフトの両面での有用な点やここは見直したほうが良い点等の意見を取りまとめており、施設整備を検討される際の参考に役立てていただければ幸いです。

また、今回の実態調査にあたり、アンケートの協力、実地調査やヒヤリングにご協力頂いた各位に厚く御礼申し上げます。

2013年3月

独立行政法人 福祉医療機構
福祉貸付部

認知症高齢者グループホーム及び小規模多機能施設の標準モデル

区分	平均値	中央値
建築関係		
1人あたり延床面積		
認知症高齢者グループホーム	32.6㎡	32.1㎡
小規模多機能施設	42.1㎡	40.5㎡
1人あたり建築単価	731万円	758万円
㎡あたり建築単価	19.3万円	19.8万円
(坪あたり建築単価)	63.8万円	65.5万円
1人あたり借入単価	677万円	578万円
運営関係		
認知症高齢者GHの稼働推移		
1か月	52.0%	52.2%
3か月	69.9%	53.0%
6か月	79.3%	69.2%
9か月	83.9%	78.3%
1年	87.2%	83.3%
1年6か月	95.1%	98.3%
2年	96.3%	99.4%
小規模多機能施設の稼働推移		
1か月	31.8%	32.0%
3か月	44.8%	44.0%
6か月	54.3%	52.0%
9か月	59.5%	56.0%
1年	66.7%	64.0%
1年6か月	68.0%	64.0%
2年	71.1%	72.0%
1人あたり経営資金単価	112万円	110万円
認知症高齢者GHの家賃	52,739円	49,600円
小規模多機能施設の宿泊費	2,390円	2,500円
要介護度		
認知症高齢者GH	2.6	2.6
小規模多機能施設	2.5	2.5
人材関係		
認知症高齢者GHの配置割合		
介護支援専門員	12.7%	—
介護職員(3年経験未満)	38.8%	—
介護職員(3年経験以上)	41.2%	—
介護職員(パート常勤換算)	18.8%	—
看護職員(常勤換算)	2.6%	—
配置基準	1.2:1	1.2:1
小規模多機能施設の配置割合		
計画作成担当者	7.8%	—
介護職員(3年経験未満)	28.2%	—
介護職員(3年経験以上)	36.6%	—
介護職員(パート常勤換算)	20.2%	—
看護職員(常勤換算)	7.2%	—
配置基準	2.3:1	2.3:1

平均値:母数の全ての値を平らにならしたときの値を示す。

中央値:母数を一列に並べて上(下)から数えて真ん中の順位になる値を示す

目次

第1章 実態調査の背景と目的	1
1. 実態調査の背景と目的	1
2. 調査結果の報告	1
第2章 施設整備の概要（指標編）	2
1. 施設に関わる各種指標	2
①定員分布	2
②認知症高齢者グループホーム施設機能別面積	2
③1人あたり延床面積	3
④1人あたり建築単価	3
⑤㎡、坪あたり建築単価	4
⑥1人あたり借入単価	4
⑦1人あたり経営資金単価	5
⑧資金計画の構成割合	5
2. 稼働状況	6
①各時点の稼働状況（施設別一時点別）	6
②稼働分布状況	6
・認知症高齢者グループホーム一時点別	6
・小規模多機能施設一時点別	6
③平均要介護度	7
④家賃と宿泊費	7
3. 職員の状況	7
①介護職員の配置割合	7
②平均配置基準	8
③募集開始時期	9
④主な募集方法	9
⑤選考開始時期	9
⑥充足時期	10
⑦本俸	10
第3章 施設整備の概要（アンケート編）	11
1. ハード面に関すること	11
①建築単価の適正について	11
②設備、構造面で配慮したこと	12
③他施設を参考にしたこと	13
④処遇上、有効だったこと	14

⑤処遇上、不必要だったこと	15
⑥利用者にとって有効だったこと	16
⑦スプリンクラーの設置状況等	17
⑧行政指導等で整備したこと	17
⑨居室内トイレについて	17
⑩居室外トイレについて	18
⑪その他アピールポイント	18
2. ソフト面に関すること	20
①食事提供方法について	20
②入浴利用について	20
3. その他	20
①施設のアピールポイント	20
②職員のモチベーションを上げる為に実践していること	21
③運営推進会議について	22
④認知症高齢者グループホームに他の事業を併設している理由	22
⑤小規模多機能施設に他の事業を併設している理由	22

第1章 実態調査の背景と目的

1. 実態調査の背景と目的

認知症高齢者グループホーム及び小規模多機能施設については、各自治体が地域の実情に応じて整備を進めている中で、当機構においても支援しているところであります。

当機構の資金は、融資を通じて介護基盤の整備が推進されることとともに事業者が提供する利用者サービスの質的な向上を図ることを目的とし、施設整備にあたって融資相談をより充実したものにすることで社会福祉法人が安定的に経営され、長期に亘り利用者サービスが確保できるよう多面的に支援を行っております。

今回の調査では、当機構の資金をご利用いただき施設を開設された事業者を対象に、運営状況や、実際に建ち上げに携わった経験から得た貴重なご意見を参考に今後、当機構の資金がより一層利用者サービスの質の向上に貢献できるよう改善していくことを目的としております。

2. 調査結果報告の手順

実態調査は、平成20、21年度に当機構の融資制度を利用した認知症高齢者グループホーム及び小規模多機能施設の整備概要、稼働状況、職員の状態、ハード面、ソフト面について等調査を実施し、とりまとめました。

なお、平成20、21年度に当機構の融資制度を利用した施設数102件中52件の回答を基に実際の経営にあたってハード、ソフトの両面で多数のご意見をいただきましたので、その内容について併せて掲載しております。

第2章 施設整備の概要（指標編）

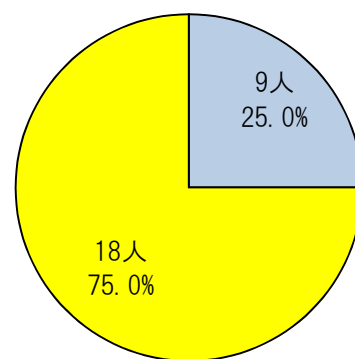
分析に用いたデータは、52件です。（併設を含む）

1. 施設に関わる各種指標

①定員分布

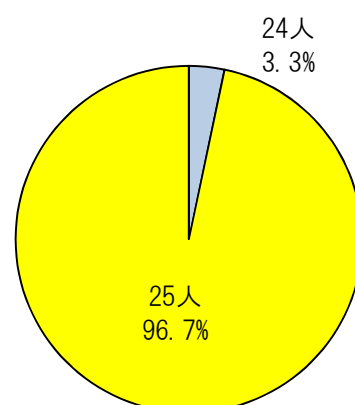
認知症高齢者グループホーム

区分	施設数	割合
9人	9件	25.0%
18人	27件	75.0%
	36件	100.0%



小規模多機能施設

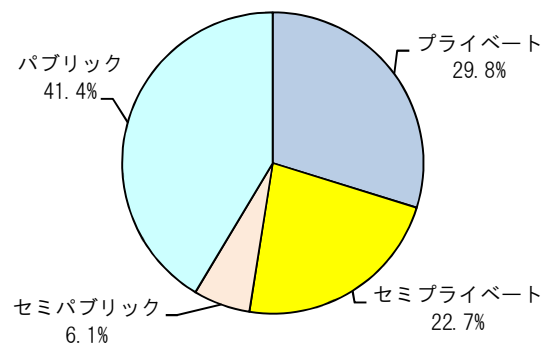
区分	施設数	割合
24人	1件	3.3%
25人	28件	96.7%
	29件	100.0%



②認知症高齢者グループホーム施設機能別面積

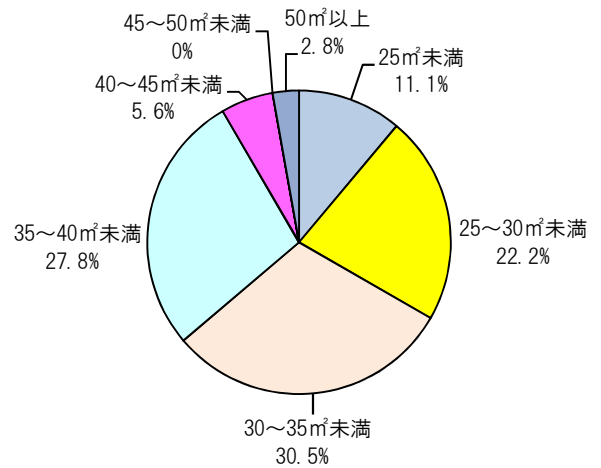
※併設の場合は、面積按分により認知症高齢者GHのみの面積から割合を算出

ユニット施設機能	割合
プライベート	29.8%
セミプライベート	22.7%
セミパブリック	6.1%
パブリック	41.4%
	100.0%



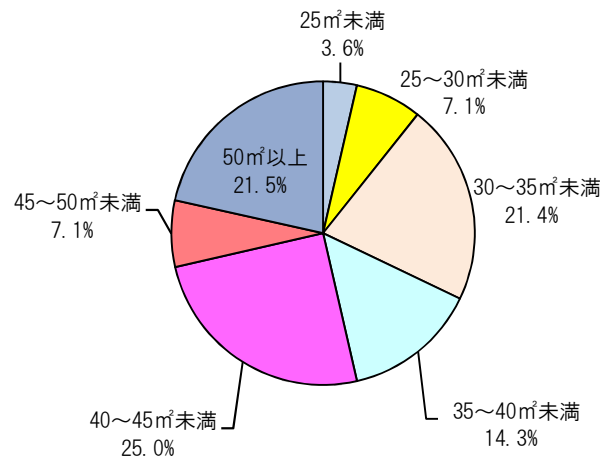
③ 1人あたり延床面積（認知症高齢者GH）

区分	施設数	割合
25㎡未満	4件	11.1%
25～30㎡未満	8件	22.2%
30～35㎡未満	11件	30.5%
35～40㎡未満	10件	27.8%
40～45㎡未満	2件	5.6%
45～50㎡未満	0件	0%
50㎡以上	1件	2.8%
	36件	100.0%
平均値	32.6㎡	
中央値	32.1㎡	



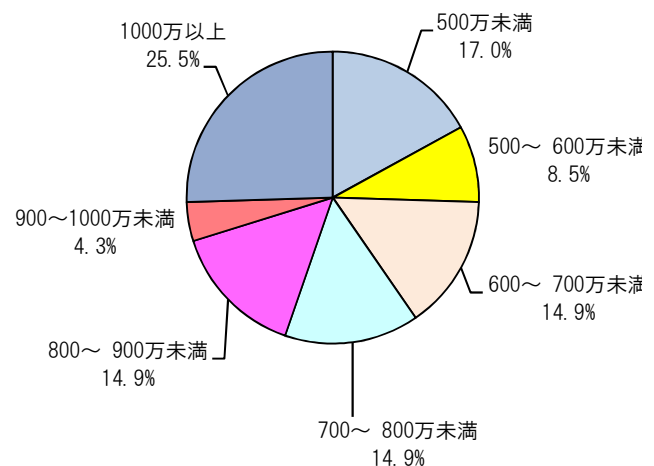
1人あたり延床面積（小規模多機能施設）

区分	施設数	割合
25㎡未満	1件	3.6%
25～30㎡未満	2件	7.1%
30～35㎡未満	6件	21.4%
35～40㎡未満	4件	14.3%
40～45㎡未満	7件	25.0%
45～50㎡未満	2件	7.1%
50㎡以上	6件	21.5%
	28件	100.0%
平均値	42.1㎡	
中央値	40.5㎡	



④ 1人あたり建築単価

区分	施設数	割合
500万未満	8件	17.0%
500～600万未満	4件	8.5%
600～700万未満	7件	14.9%
700～800万未満	7件	14.9%
800～900万未満	7件	14.9%
900～1000万未満	2件	4.3%
1000万以上	12件	25.5%
	47件	100.0%
平均値	731万円	
中央値	758万円	



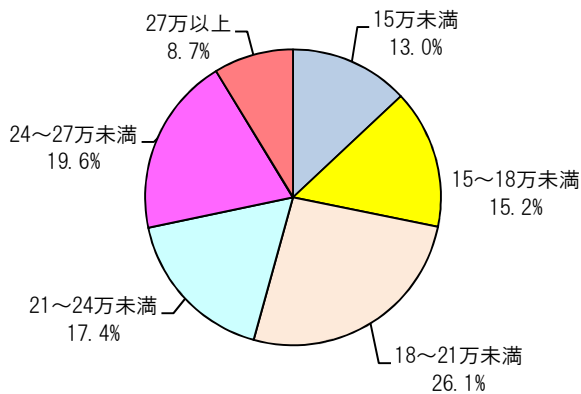
⑤㎡あたり建築単価

区 分	施設数	割合
15 万未満	6 件	13.0%
15～18 万未満	7 件	15.2%
18～21 万未満	12 件	26.1%
21～24 万未満	8 件	17.4%
24～27 万未満	9 件	19.6%
27 万以上	4 件	8.7%
	46 件	100.0%
平均値	19.3 万円	
中央値	19.8 万円	

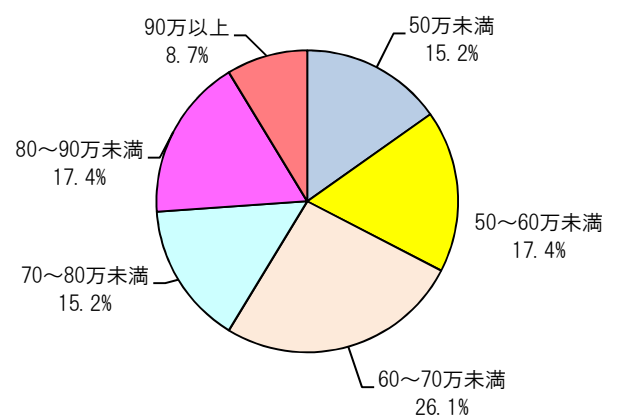
・坪あたり建築単価

区 分	施設数	割合
50 万未満	7 件	15.2%
50～60 万未満	8 件	17.4%
60～70 万未満	12 件	26.1%
70～80 万未満	7 件	15.2%
80～90 万未満	8 件	17.4%
90 万以上	4 件	8.7%
	46 件	100.0%
平均値	63.8 万円	
中央値	65.5 万円	

<㎡単価>

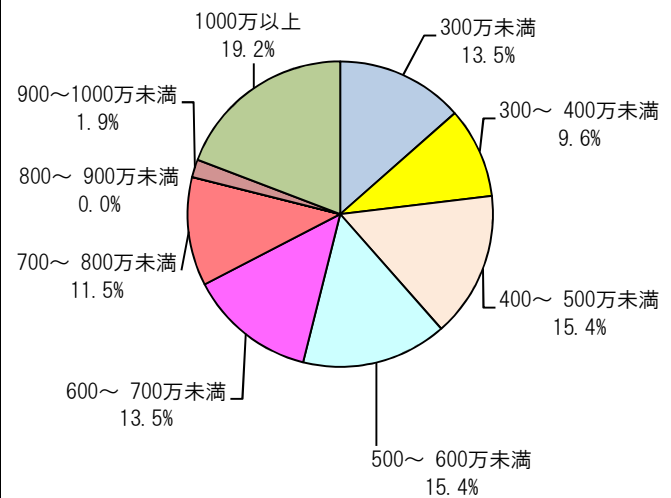


<坪単価>



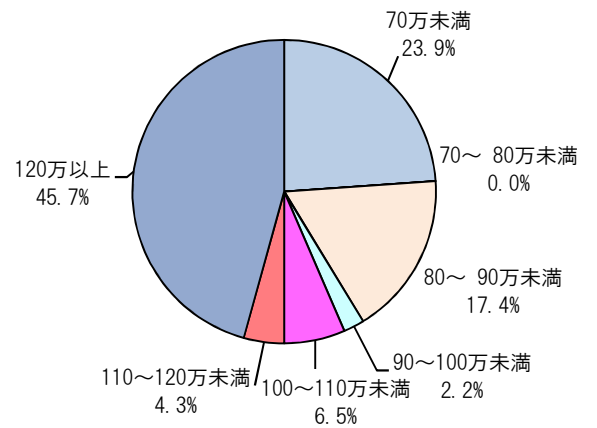
⑥1人あたり借入単価

区 分	施設数	割合
300 万未満	7 件	13.5%
300～ 400 万未満	5 件	9.6%
400～ 500 万未満	8 件	15.4%
500～ 600 万未満	8 件	15.4%
600～ 700 万未満	7 件	13.5%
700～ 800 万未満	6 件	11.5%
800～ 900 万未満	0 件	0.0%
900～1000 万未満	1 件	1.9%
1000 万以上	10 件	19.2%
	52 件	100.0%
平均値	677 万円	
中央値	578 万円	



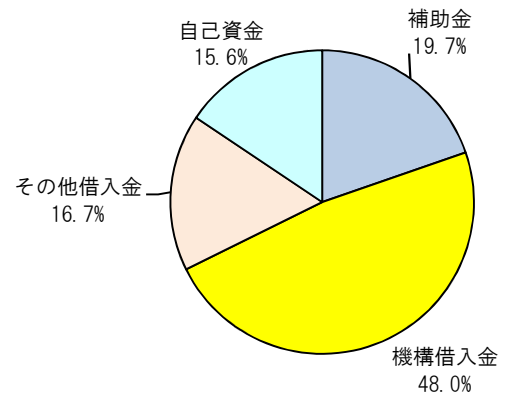
⑦ 1人あたり経営資金単価

区 分	施設数	割合
70 万未満	11 件	23.9%
70～ 80 万未満	0 件	0.0%
80～ 90 万未満	8 件	17.4%
90～100 万未満	1 件	2.2%
100～110 万未満	3 件	6.5%
110～120 万未満	2 件	4.3%
120 万以上	21 件	45.7%
	46 件	100.0%
平均値	112 万円	
中央値	110 万円	



⑧ 資金計画の構成割合

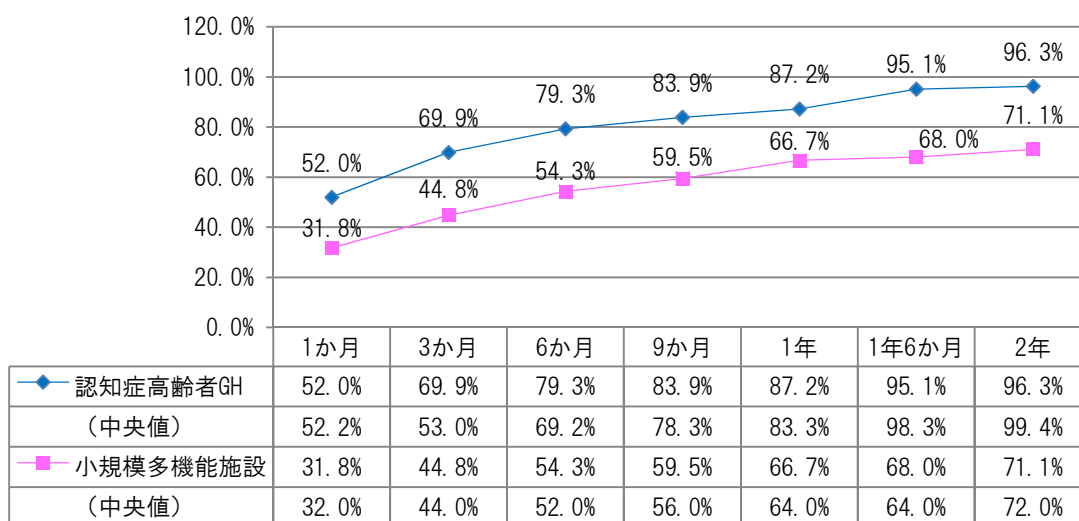
資金計画内訳	割合
補助金	19.7%
機構借入金	48.0%
その他借入金	16.7%
自己資金	15.6%
	100.0%



2. 稼働状況

①各時点の稼働状況（小規模多機能施設は登録状況）

稼働状況（施設別一時点別）



②稼働分布状況

・ 認知症高齢者GH一時点別

区分	1か月	3か月	6か月	9か月	1年	1年6か月	2年
25%未満	15.6%	12.5%	6.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25～50%未満	28.1%	18.8%	15.6%	15.6%	12.5%	6.3%	12.5%
50～70%未満	28.1%	31.3%	28.1%	21.9%	21.9%	18.8%	12.5%
70～80%未満	3.1%	3.1%	9.4%	15.6%	12.5%	6.3%	3.1%
80～90%未満	9.5%	15.6%	6.3%	6.3%	9.4%	0.0%	3.1%
90～95%未満	0.0%	3.1%	9.4%	9.4%	3.1%	12.5%	6.3%
95%以上	15.6%	15.6%	25.0%	31.2%	40.6%	56.3%	62.5%

・ 小規模多機能施設一時点別

区分	1か月	3か月	6か月	9か月	1年	1年6か月	2年
25%未満	41.4%	31.0%	17.3%	10.4%	10.4%	6.9%	0.0%
25～50%未満	37.9%	27.6%	27.6%	31.0%	10.4%	17.2%	13.8%
50～70%未満	17.3%	27.6%	24.1%	20.7%	37.8%	34.5%	34.5%
70～80%未満	3.4%	3.4%	6.9%	10.4%	10.4%	6.9%	6.9%
80～90%未満	0.0%	3.4%	20.7%	13.8%	10.4%	17.2%	27.6%
90～95%未満	0.0%	3.4%	0.0%	10.3%	6.9%	6.9%	6.9%
95%以上	0.0%	3.4%	3.4%	3.4%	13.7%	10.3%	10.3%

③平均要介護度

区 分	認知症高齢者GH	小規模多機能施設
平均要介護度	2.6	2.5
(中央値)	2.6	2.5
(最大値)	3.9	3.2
(最小値)	1.9	1.4

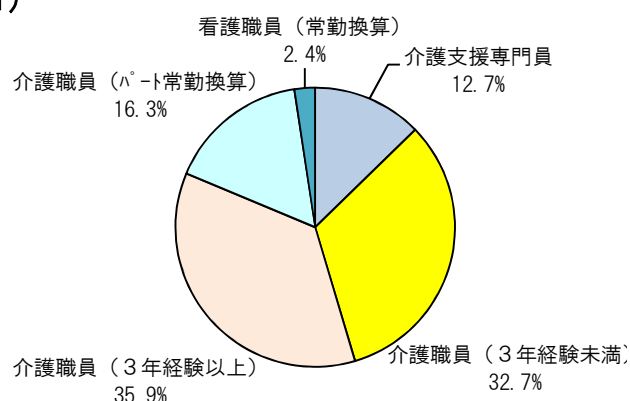
④家賃と宿泊費

区 分	認知症高齢者GH	小規模多機能施設
家賃(宿泊費)	52,739円	2,390円
(中央値)	49,600円	2,500円
(最大値)	99,000円	4,000円
(最小値)	20,000円	500円

3. 職員の状況

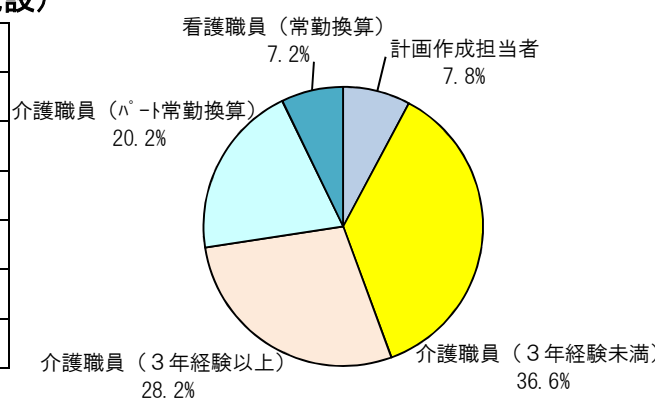
①介護職員の配置割合(認知症高齢者GH)

区 分	割合
介護支援専門員	12.7%
介護職員(3年経験未満)	32.7%
介護職員(3年経験以上)	35.9%
介護職員(パート常勤換算)	16.3%
看護職員(常勤換算)	2.4%
	100.0%



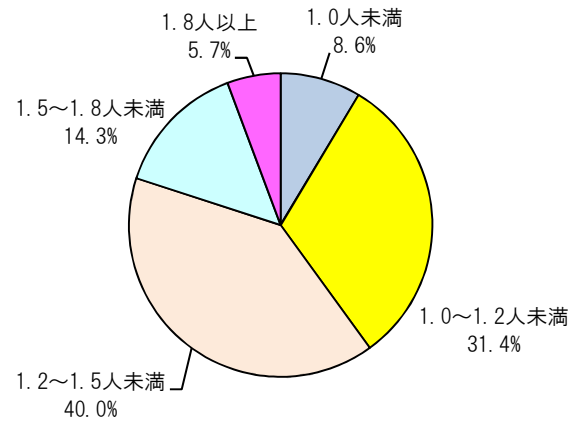
介護職員の配置割合(小規模多機能施設)

区 分	割合
計画作成担当者	7.8%
介護職員(3年経験未満)	36.6%
介護職員(3年経験以上)	28.2%
介護職員(パート常勤換算)	20.2%
看護職員(常勤換算)	7.2%
	100.0%



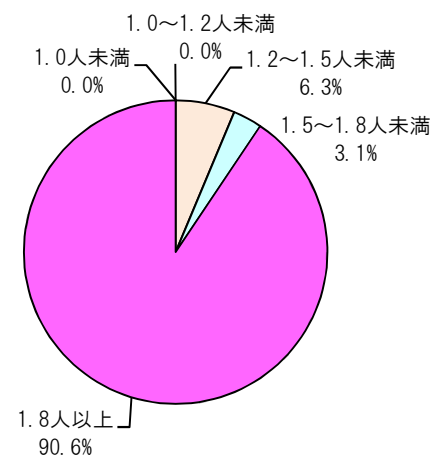
②平均配置基準（認知症高齢者GH）

区分	件数	割合
1.0人未満	3件	8.6%
1.0～1.2人未満	11件	31.4%
1.2～1.5人未満	14件	40.0%
1.5～1.8人未満	5件	14.3%
1.8人以上	2件	5.7%
	35件	100.0%
平均配置割合		1.2 : 1
中央値		1.2 : 1



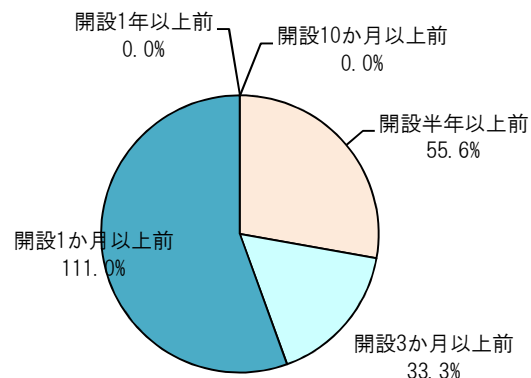
平均配置基準（小規模多機能施設）

区分	件数	割合
1.0人未満	0件	0.0%
1.0～1.2人未満	0件	0.0%
1.2～1.5人未満	2件	6.3%
1.5～1.8人未満	1件	3.1%
1.8人以上	29件	90.6%
	32件	100.0%
平均配置割合		2.3 : 1
中央値		2.3 : 1



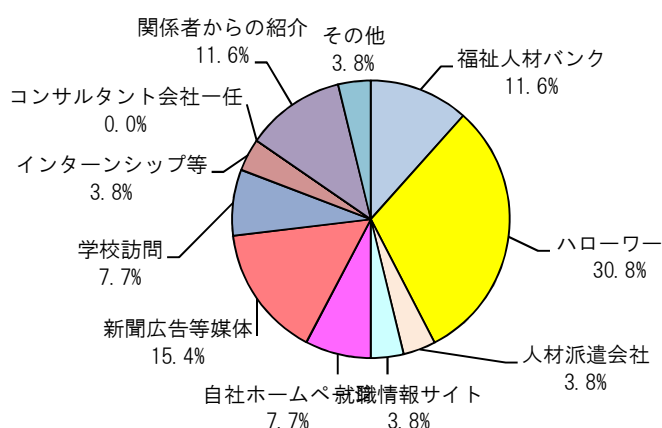
③募集開始時期

	割合
開設1年以上前	0%
開設10か月以上前	0%
開設半年以上前	55.6%
開設3か月以上前	33.3%
開設1か月以上前	11.1%
計	100.0%



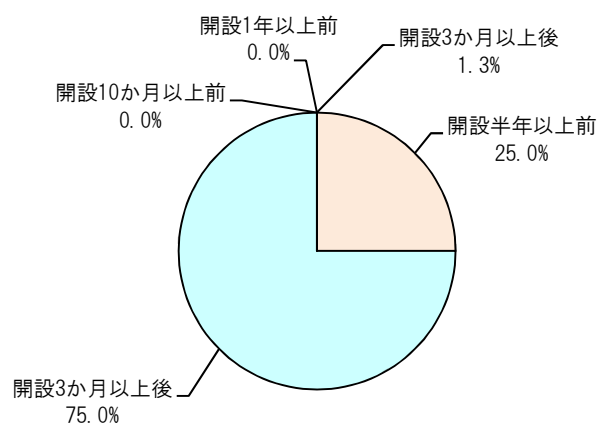
④主な募集方法（複数回答あり）

	件数	割合
福祉人材バンク	19件	11.6%
ハローワーク	50件	30.8%
人材派遣会社	6件	3.8%
就職情報サイト	6件	3.8%
自社ホームページ	12件	7.7%
新聞広告等媒体	25件	15.4%
学校訪問	12件	7.7%
インターンシップ等	7件	3.8%
コンサルタント会社一任	0件	0.0%
関係者からの紹介	19件	11.6%
その他	6件	3.8%
計	162件	100.0%



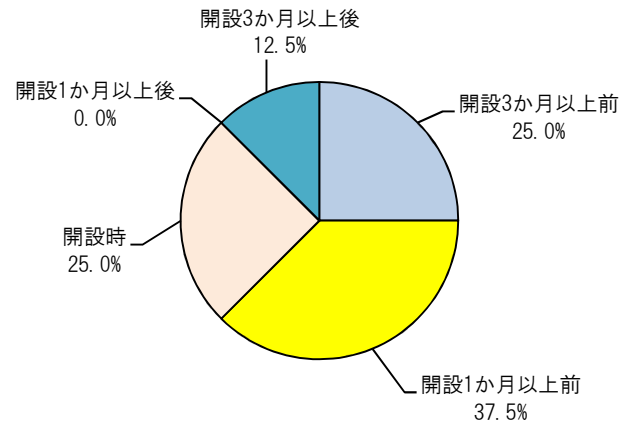
⑤選考開始時期

	割合
開設1年以上前	0.0%
開設10か月以上前	0.0%
開設半年以上前	25.0%
開設3か月以上前	75.0%
開設1か月以上前	0.0%
計	100.0%



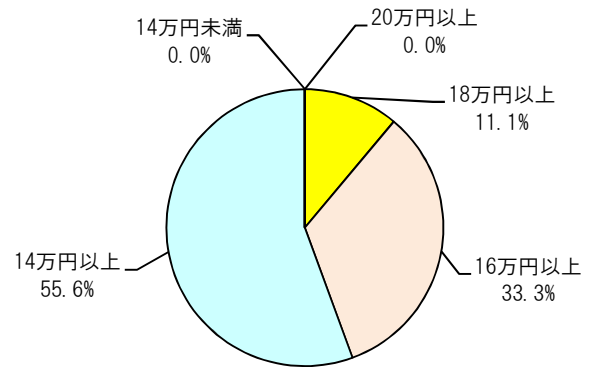
⑥充足時期

	割合
開設 3 か月以上前	25.0%
開設 1 か月以上前	37.5%
開設時	25.0%
開設 1 か月以上後	0.0%
開設 3 か月以上後	12.5%
計	100.0%



⑦本俸

	割合
20 万円以上	0.0%
18 万円以上	11.1%
16 万円以上	33.3%
14 万円以上	55.6%
14 万円未満	0.0%
計	100.0%



第3章 施設整備の概要（アンケート編）

分析に用いたデータは、52件（回答数は複数回答を含む）です。

1. ハード面に関すること

①建築単価の適正について（回答数 30 件）

	件数	主な理由
適正と認識	17 件	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な建築単価を入札前に判断し、その単価内で最善の材料、設備等を考慮した。 ○狭い土地で配置を工夫することで最大限に活かした。 ○木造にすることで建築コストを抑えた。 ○床材をフローリングからタイルカーペットに変えることにより家庭的な雰囲気が出せた事に加え材料費など経費の節減が出来た。 ○当法人の既存施設と比較して建築コストを決めた。
高いと認識	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症対応型の入居施設であるため、木造で平家造としながらも十分な居住スペースを確保したため、構造が複雑となり建築コストが割高となった。また、小規模な建物となるので建築単価は割高となった。 ○将来の事業展開も考え広々とした施設としたため建築コストは少し高めとなった。 ○割高ではあっても建物の品質を確保する事が最優先と考えた。 ○閉鎖的な施設ではなく、ご利用様ができるだけ自由に生活できる施設を基本とした。
安いと認識	5 件	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄骨にすることで、コストを抑えたこと、安全性が保てる建物にした。 ○リーマンショックの後ということで建築単価も下がっていた分、設備を充実させることができた。 ○既存住居を改造することで建築コストを抑え、利用者が住みなれた家から離れても違和感のない家とした。 ○温かみのある木造にしたことで建築コストを抑えることができた。

②設備、構造面で配慮したこと

【設備・構造等】（回答数 45 件）

（主な回答）

○オール電化システム、LED 採用し、ランニングコストの低減に配慮した。
○太陽光給湯設備を設置し、ランニングコストの低減を目指した。キッチンにIH仕様として火災や事故に配慮した。
○高齢者に優しい床暖房設備を設置した。電気料金を抑えつつ施設内を明るくするため、各所に十分な採光を得られるような設計とした。
○補助金を利用して、屋上緑化工事を行い、暖房効率を高め、ランニングコストの低減に務めるとともに、ご利用者にも好評をいただいている。
○床材等は高齢の方が転倒した時の事を考え柔らかい物を選択した。
○リビング天井を高く、採光窓を採用することにより、リビング全体が明るい雰囲気となるよう配慮した。
○小規模な事業所であるため設計もコンパクトなものにまとめ、光熱水費等のランニングコスト軽減や動線の短絡化により見守りしやすく効率の良い構造とした。
○壁・床・天井に断熱材を入れ、ペアガラスを採用していることで、冷暖房費が削減できている。
○木造平屋にすることで、俗に言う介護施設ではなく、一般住宅並みの日常生活環境が保たれる建物とした。
○平屋建て及びリビングを囲むように居室を配置することで施設内の移動が容易であり、見守りの安全性にも配慮した。
○転倒防止のためあらゆるところに手すりを設置した。また、居間の一部にパーティションで部屋が作れるようにし、スタッフのそばで就寝できるようにした。
○アイランド型キッチンで利用者の表情を見ながら一緒に調理が楽しめるように工夫した。
○2ユニットの間にスタッフルームを配置し夜間帯でも入居者の動きが把握しやすいようにした。
○全館バリアフリーの為、お一人でも安全に移動していただける環境となっている。トイレや洗面等もわかりやすい場所に配置し、適宜案内版を取り付け安心して過ごせるように配慮している。
○火災警報装置（消防本部に直結する）を設置した。

③他施設を参考にしたこと（回答数 37 件）

（主な回答）

○採光について他施設を参考にした。ごく自然に集い、語らいが出来るような大きさや配置に配慮した。居心地のよい空間となるように食事スペースやリビングスペースに十分な採光を得られるように設計した。
○建物の中央に空間を作る事により GH・有料老人ホームの十分な採光を得られた。
○採光や照明を参考とし、デイサービスホールは全面ガラス張りで照明の覆いは和紙を採用し落ち着いた雰囲気となっている
○リビングはなるべく天井を高くして圧迫感を軽減し、開放感を持たせるとともに、職員の目の届かない死角がないように設計した。
○和室やソファを活用しゆっくり休息や団欒が摂れるような環境とした。泊まりの宿泊室も自由に入出りでき、ご本人に合ったペースで過ごす事できる。宿泊室は、泊まる方によって、配置を変えたりして、ご本人が居心地良くなるように配慮している。
○居心地の良いフロアになるようにテーブル、椅子をシックなものにし、また、ソファ、カーテンも落ち着く色にした。
○木のぬくもりと木目調に仕上げた環境・暖色を使った光の提供により家庭的な雰囲気を取り込めた。
○見学した他施設は、リビングを囲むように居室が配置されているところが多かったが、プライバシーが保てるようにリビングと宿泊室を分けるように設計した。
○共同生活室は真ん中に位置することが多く、暗くなってしまうため、大きな窓を設け、明るい雰囲気にした。
○家庭的雰囲気を持たせるため、ベランダを広く取り、洗濯物が干せるようにした。
○2連の共有手洗いカウンターの高さを2種類設けることで、利用者の選択肢を広げた。
○夜間の職員の待機場所は、すべての居室が見渡せ見守りが充分に出来るよう設計した。
○脱衣場に隣接したトイレに、リビング側と脱衣場側に出入り口を設けた事により、入浴前の排泄や入浴中の失禁にも素早く対応できた。
○オールフラットにすることで、入所者同士の交流が容易になり、事故の防止にも寄与できた。
○とにかく職員の動線が良くなるように工夫した。
○居間の位置（記録記入場所）を各居室の出入りが見通せる位置とした。

④処遇上、有効だったこと（回答数 41 件）

（主な回答）

○車椅子の移動を考慮し、廊下は両側に手すり、幅も余裕ある広さに配慮した。
○床材の選択により、事故等の軽減を行う。
○施設では段差が少なく、廊下には手すりがあり、転倒防止に努めている。
○玄関の段差や階段などの段差を設けることにより、下肢筋肉が強化され、利用者の転倒防止につながっている。
○共同生活室から居室が全部見れることで、転倒など事前に対応できる。
○トイレ内に手摺を設置した事。立位保持及び転倒防止に有効だった。
○二重床構造は転倒の際、重大事故を防ぐことができること。また床暖房は、エアコンの使用頻度を抑えるのに役立ち、空気の乾燥を防いでくれる。
○トイレにシャワーノズルを付けることにより、ポータブルトイレの処理が手際よくできる。
○ヒノキの浴槽は木の香りや見た目、肌触りでリラックスできるため、利用者から好評だった。キッチンとホールが隣接しており、台所作業をしながらの見守りや利用者が調理補助に参加しやすい構造になった。
○デイサービスホールに隣接して和室を作り、掘りコタツとなっており、冬場にはゴロンと横になって休むことが出来る
○解放的なリビングを可動式の木製間仕切りで細かく区切り、ご利用者それぞれのお気に入りの空間でくつろいでいただけるような設えとした。
○小規模多機能施設内リビングに吹き抜けを取り入れたことにより、暖かな環境と開放感のある空間ができた。
○2階宿泊部分二部屋をアコーデオンドアで仕切り宿泊室としたが、宿泊のないときに廊下と合わせ多目的に使えるので面積が有効に使える
○建物内の動線が短く、利用者を見守りしやすいことに加え、職員の負担軽減になった。
○ユニットに入る前の扉を設置し、開閉を職員が管理することで利用者の生活の安全性を確保した。
○各居室に洗面台を設けることで、洗面等個別のケアがし易い。また、冬季には居室の乾燥防止のため水を張るなど対処ができる。）
○各ユニット内のリビング、ダイニングルーム等の共用スペースが広く、また分散化されており、入居者の居場所が選べる空間となっており、ゆったりとくつろいで頂くことができる。
○当初の予定より洗面台の証明を思いっきり明るくしたことにより、口腔ケアがやりやすくなり的確に行えるようになった。そのことが、ご利用者の健康維持につながっていると思われる。
○平屋造りにしたため、見通しがよく、移動も楽にでき、利用者、職員の負担軽減につながった。
○オープンキッチンにすることにより、キッチンとリビングを一体化し、調理の音や料理の香りが感じられ、話題や食欲が増した。また、その日のキッチン担当職員が

リビング全体を見守りながら調理業務が出来ることで、利用者の異変などに気付くことができ、インシデントの役にも立っている。
○機密パッキンを用いた基礎断熱工法の建物とし、床下にファンを取り付けたことにより、建物全体の快適性を確保することができた。
○家庭用ベットではなくツーモーターの介護用ベットを設置したことで重度の利用者の受入れが可能になった。
○1Fを居室、2Fを生活の場（リハビリ、食堂、風呂）とし、目が届きやすい環境とした。
○オールフラット左右対称2ユニットとしたことで、入所者同志の交流や職員同士の連携がスムーズに行われ、実際、利用者の急変時の対応がスムーズに実施された。

⑤処遇上、不必要だったこと（回答数 25 件）

（主な回答）

○・トイレのスイッチを人感センサーにしているが、電気が消えないからこのままで良いのか、スイッチはどこか、と職員へ聞かれる方が多かった。
○各ユニットに男子専用トイレ（小便器）を配置したが、実際、利用者のADLが低下しており、使用しなかった（できなかった）。しかし、水周りの設備であり、近い将来、洋式トイレへの改造が可能で今後有用である。
○居室は畳部屋と長尺シートの2種類を作ったが畳の希望者が多かった。車椅子対応の広いトイレにしたが片壁面しか活用できない。落ち着かない等あり一部は通常トイレでもよかった。グループホームでは男子トイレを導入したが利用はほとんどなかった。
○宿泊部分に浴室を設けたがデイの部分の浴室のみで充分であった
○各階にシャワールームを設置したが、ほとんど使用されていない。
○炭酸泉の整備をしたが、ランニングコストがかさんでしまっているし、思ったほどの効果は得られていないようである。
○浴槽が大きすぎたため、入浴希望時や必要時に対応できない時がある。
○システムキッチンだが、食器洗浄乾燥機はあるが、利用者数の数が賄いきれない。
○床暖房を設けたが、実際使用する日は少なく空調設備で十分暖をとれたので無駄であった。
○バリアフリーで認められなかったが、玄関の段差はあった方が自然。
○火災時、避難が容易になるために掃き出し口方法を取ったが、後日スプリンクラーを設置した為 unnecessary 対応となった。）
○壁面全てに手すりを付けた為、食器戸棚等の家具の設置場所に困った。
○各ユニット内の畳小上がりコーナーに掘こたつを設置したが、畳コーナー自体は良いものの、入居者にとって小上がりになっている事が使い勝手が良くなく、有効では無かった。
○リビングや廊下から玄関が見えない構造となっており、外へ歩きだしてしまう方がいる場合、気付くのが遅れる事があった。昼食後の昼寝など、ホール以外で休める場所がないため、できれば居室2つ分を畳部屋にして日中は昼寝や小グループがく

つろげる場所にできれば良かったと思う。
○古民家風である為、全体が薄暗い照明となり、支援に支障をきたすことがあった。 蛍光色の照明に変更した。
○各居室にテレビと電話の回線を設置したが、個人でのテレビや電話の設置希望がほとんどなかった。
○フロアの居室に取り付けた畳状の床部分は、活用方法が無く無駄であった。個別浴の2ヶ所設置してあるが、見守りが出来ないため1ヶ所しか使用していない。
○居室の入り口がもう少し広口の方がベッドが入れやすい。大きな柱が死角となって、目が届かない時がある。
○各居室に床頭台を設置したが有効に活用していただける利用者が少なかった。

⑥利用者にとって有効だったこと（回答数 40 件）

（主な回答）

○居室、トイレ等のドアを吊り戸にし、入口の段差をなくしたことにより、車いすでも利用者がスムーズに出入りできた。
○車椅子用のトイレのドアを広く取り、出入りが楽で危険も少なく広さも充分あり動きがスムーズに出来た。
○居室、トイレ等の鏡の位置を車椅子からでも見やすいように工夫したことや、温水器や排水器具が大胆に露出しないよう工夫した。
○浴室やトイレを左右対称に取り付け、多目的トイレを設置することでいろんなケースを受け入れられるようにした。
○トイレ内に手すりの設置は当然行っているが、身体を前にもたれかかる事が出来る手すり（可動式）を取り付けた事で体調不良の方もトイレにて排泄が可能になった。
○浴槽をまたぎこみしやすく（サイドスライド式）と昇降ユニットを設置したことから、ADLが低下傾向にある方にも対応できる。
○台所の流し台を除く、各洗面所及びトイレ内の蛇口をセンサー式の設備にした事から、感染防止に有効である。（直接触れない）
○段差をすべてなくしてのスムーズな移動経路の確保。中央空間のテラスがご利用者の憩いの場所・洗濯物干し場・園芸の場の有効活用できている事が良かった。
○バルコニーで、天気の良い日にはティータイムを楽しんでいる。ミニ菜園で野菜を栽培し、収穫の楽しみと収穫したものを頂く楽しみをもてた。
○建物が駅から近く街中にあること、建物が周辺に馴染んでいるので家族が訪問しやすく、ご利用者との交流がスムーズに行われている。
○敷き布団、ベッドの対応として寝具やパットを用意したので入居者（利用者）の状態にあわせて活用できた。
○畳み部屋を二部屋設置することで、布団で生活される方の宿泊対応ができた。
○2階に部屋を設けることにより、階段を上り下りしてもらうことなどで、リハビリ効果があり転倒事故防止につながっている。
○併設施設の通所介護と一体であるため、行事やレクリエーション、お祭りなどが一緒にでき利用者にとって有効であった。

○リビングに和室コーナーがあり、掘りごたつにし、足をのばせるようにしたほか、あえて床からの高さを40センチくらいと高めにし、腰をかけて立ち上がれるようにした。
○ホールを囲んで居室があるため、ホール⇄居室の移動が容易で安全。ウッドデッキや居室から外にでられるので解放感があり、防災上もメリットがある。
○リビングルームに接する居室を畳の和室にし、日中はダイニングのスペースとして、夜間は宿泊スペースとして利用でき、狭い空間を最大限に利用できる設計とした。利用者にも人気のスペースであり、有効な設計と考える。

⑦スプリンクラーの設置状況等

設置状況
○設置 (17 件)
・湿式・簡易型…5 件
・乾式・簡易型…2 件
・湿式・一般型…12 件
・乾式・一般型…2 件
設置費用 (回答数 15 件)
○2,000 千円未満 … (2 件)
○2,000～2,999 千円 … (2 件)
○3,000～3,999 千円 … (6 件)
○4,000～4,999 千円 … (0 件)
○5,000～5,999 千円 … (1 件)
○6,000 千円以上 … (4 件)
●平均金額 5,000 千円
未設置の場合、今後の設置の考え
○近々設置予定あるいは設置工事中。(4 件)
○検討中。(1 件)
○設置予定なし。(1 件)

⑧行政指導等で整備したこと

○スプリンクラーの設置指導 (3 件)
○二階部分からの避難経路として滑り台タイプの避難設備を導入した。(1 件)
○地域交流スペース (1 件)

⑨居室内トイレについて

設置・未設置
○設置 (4 件)
○未設置 (18 件)

良かった点（主な回答）
○寒冷期等にすぐに排泄が可能であるため、転倒や感染症の防止にもなる。
○落ち着いて家庭に近い感覚で暮らしていただける。
○歩行困難な方でも、居室にトイレがあれば、自立で排泄を行える。
○夜間でも、できる限り自立した排泄を維持することができた。
○プライバシーの保護ができ尊厳を守ることができた。
悪かった点（主な回答）
○職員の見守りが困難な状況を生むこと

⑩居室外トイレについて

良かった点（主な回答）
○介護職員の目が届きやすいため、転倒等のリスクが軽減される。
○個々の排泄パターンが把握しやすく、オムツのない生活への支援をする上での情報が取りやすい。
○居間内に臭いがこもりにくい為、清潔感がある。
○排便間隔などの確認がしやすい。
○利用者が居室よりリビングで過ごす時間が多く、共有スペース内にあるため行きやすい。
○トイレの汚染があっても発見し易く清掃処理できる。
悪かった点（主な回答）
○トイレ誘導時間が重なりやすいので、時間がかかる。
○職員が排泄介助に時間を取られることが多い。
○居室外のトイレの位置が分からない利用者が、他利用者の部屋に入って行く事もあり、職員が目を見せない事もある。
○トイレが居室から遠い利用者の処遇がうまく出来なかった事と、距離が事故につながる可能性あり
○プライバシーが守れない時がある。

⑪その他アピールポイント

(主な回答)

○機械浴を最初に設置したが、少しずつ入居者の利用が増えてきた。
○個浴 2 基にはリフトを設置し、浴槽をまたぐことが出来ない利用者にも、危なげなく入浴していただけるようにしている。
○風呂は、個浴、機械浴共に庭が望めるように配置している。泊まりは、自宅で和布団で寝られている方には、畳みの部屋で、自宅がベッド使用ならベッドで馴染みやすい工夫をしている。
○個浴で炭酸泉の入浴にして、とても温まり喜んでもらっている。

○入浴時のリラックス効果を狙い、ヒバの浴槽とした。
○浴室も脱衣所も1人ずつ使用し、職員がマンツーマンでついてヒノキの浴槽にゆっくりと入浴できる。特養を併設し24時間の看護オンコール体制や胃ろう等の医療的処置が必要な方も可能な限り受入れている。地域交流スペースの壁は可動式でホールと一体にできるため、地域での各種行事への参加やボランティア来所時に広々と使用できる。
○ダイニング、ホールは日当たりがよく、田園風景が見られ、四季がよくわかり、のどかな生活が送れる。
○施設西側に畑を設置し、バルコニーからスロープを利用して車イスでも畑へ行けるようにしている。
○玄関から、上履きに変える事を前提に設計し、家庭的な温かみのある暮らしができています。
○学校や公園、保育所が近いので、子供達が自由に立ち寄れる・地域の祭り、学校の運動会に参加できる・桜など四季折々の花が窓より見ることが出来る
○家庭的で暖かな雰囲気、居心地の良い環境を整え利用者様ご家族様の心のケアを行い安心と信頼で暮らし続けられるよう努めております。また、「気づき」のケアを重視し保持する能力を活かす工夫を常に考え支援しています。地域の方には介護相談を受入れケアのポイント等の助言、他介護施設等の紹介も行っています。
○内部を木調でレトロ風にし、暖かい雰囲気を出し、室内を東向き、南向きになって庭が眺められ1日中暖かみのある居場所となっている。
○浴室は、露天風呂気分が味わえるように南側全面を窓にし、坪庭が見えるようにした。宿泊室の1室を和室とし、要支援者で自宅で布団で寝ている人が泊りに来た時も同じ環境で寝られるように配慮した。
○敷地が狭く思ったようなプランに出来なかったが南面に大きな硝子戸を設置したのは明るく良かった。
○京風長屋をイメージした造りで、安心感を与えられる。食堂から中庭が見える。地域包括支援センターが併設されている。
○地域自治会に加入しており、地域清掃や地域の消防訓練、お祭り行事等に積極的に参加している。
○木造建築を生かした暖かい雰囲気や、リビングの配置として外からの視線を感じさせないような設計をした。
○各ユニット内のリビング、ダイニングルーム等の共用スペースが広く、また分散化されており、入居者の居場所が選べる。設えも昔の長屋の様な設えと床、柱、壁、建具においても木造、木製品を多用しており、ウッドデッキも広く、庭や家庭菜園もあり、安らげる空間と設えになっている。
○二つのユニット間はドアで仕切られているため、日常は利用者および職員も行き来できようとしているため、共有スペースが広く感じられ、レクリエーションや施設行事がし易く、職員同士連携し易い。
○災害に強く、万一の場合でも独自で対応できる施設であること

2. ソフト面に関すること

①食事提供方法について

食事提供の考え方
○基本的な提供時間を設定するが、極力利用者の希望にあわせるため食事時間に幅を持たせている (18 件)
○利用者のリズムで自由に提供 (3 件)
○全体的に提供時間を設定 (17 件)
食材費の考え方
○全体で管理 (20 件)
○ユニットごとで管理 (5 件)
○主菜のみ全体 (2 件)
料理方法
○調理を委託 (一部含む) し、各ユニットに配膳 (7 件)
○厨房で調理し、各ユニットに配膳 (5 件)
○全てをユニットで調理 (14 件)
○クックチル方式を採用 (3 件)
配膳・盛りつけ
○全てが盛りつけられた状態で配膳されてきて利用者に提供 (3 件)
○各ユニットで調理したものを盛り付け (9 件)

②入浴利用について

個浴の利用頻度
○1人当たりの利用頻度 (回/週)・・・平均 2.7 回
○1日当たりの利用頻度 (人/日)・・・平均 6.0 人
特浴の利用頻度
○1人当たりの利用頻度 (回/週)・・・平均 2.2 回
○1日当たりの利用頻度 (人/日)・・・平均 2.2 人

3. その他

①施設のアピールポイント

(主な回答)

○家族さん、地域の方が気兼ねなく、面会、訪問できる施設づくりに取り組んでいる。
○実家など住み慣れた場所へ外出するなど支援している。
○買い物、花見、祭り見物 (地域行事) 等に月に一度くらいは外出する機会を設けている。
○設立地域のいわゆる「介護施設」ではなく、地区の中にある「一軒の家」の存在をアピールしており、実際に町内会費の納入や、地区の回覧板等のやり取りを行っている。
○ご利用者が、望まれること、(家族と外出したい。外食したい等) を叶えていくケアプランを計画立案している。

○法人の病院・介護老人保健施設とも連携を図り、高齢者には欠かせない医療の部分の援助も充実している。
○施設活動はリハビリを中心に行っており、通所介護の利用者と合同で行事を行うことで多くの利用者との交流が生まれれている。
○隣接する保育園の園児との交流がある。年間行事を合同で行う他、利用者が子どもたちに紙芝居や絵本の読み聞かせを行うことで、普段は受動的な立場の利用者が主体的になれるため、役割や生きがいにつながるよう支援している。
○毎月1日は素材に豆をつかった献立(お赤飯等)を、0の付く日は麺類のメニューとするなど季節や日々への関心、楽しみがもてるような食事を提供している。

②職員のモチベーションを上げる為実践していること

(主な回答)

○人事考課システムを導入しスキルアップできる環境作りをしている。
○法人・施設の目指す方向に努力し、常に入所者の生活を重視する職員には正当な評価の上、指導的職位への登用や、手当の支給などを実施している。
○資格に挑戦してもらい、給与に反映されるような仕組みを取り入れている。
○各種資格取得の際の奨励金。
○介護技術向上のための研修などの取り組み。
○毎月1回のユニット会議、全体会議で業務課題や改善点を検討。
○職員一人ひとりの介護力を見極めると共に、お互いのケアの方法や技術を会議等で話し合い介護技術の向上に繋げている。
○毎月の職員ミーティングの際、当番制の職員自ら決めたテーマについて、自ら作成した資料をもとに講師となって講義を行なう「自主研修会」を行なっている。
○職員各々が持っている、長所・短所を認め、長所を伸ばす取り組みを行っている。
○1日の終わりに15分程度の反省会を実施している。また、月2回のミーティングを開催し、その中で介護にまつわる研修を行っている。
○個人ごとの目標設定や個人面談を行なっている。目標により頑張った職員にはMVP賞を出している。
○感謝された事や模範となる良い取り組みを年に一回法人全体で表彰する。
○意見が出せない職員の為に意見箱の設置や業務改善提案書の作成を行っている。
○管理職、リーダーが現場に入り、スタッフと一緒に働き、困りごと等があった時は、その都度対策会議を開き解決するなど、常に全員と一緒に業務を行うようにしている。
○法人の理念に加え、GH独自の理念・指針を職員全員で意見を持ち寄り、共通のキーワードを見つけ作成した。毎朝朝礼時に唱和することで意識付けをおこなっている。
○現場の業務は介護職員の責任で予定を立てさせている。やりたい援助が実現できるのでモチベーションアップにつながる。
○管理者の考えを常に明瞭にすること
○勤務表作成時に、連休が取得できるように配慮してる。
○当法人内でサークル活動を実施し、職員にリフレッシュをしてもらうだけでなく、

他施設との意見交換の場にもなっている。

年に数回の食事会を設けている

③運営推進会議について

運営推進会議の開催頻度

2ヶ月に1度の開催（39件）

3ヶ月に1度開催（3件）

年に1、2度の開催（1件）

定期的には開催はしていない（1件）

地域連携がどのように図られているか（主な回答）

地域の広報誌にも事業所の情報を載せてもらっている。

地域ボランティアの受け入れ。認知症の理解に対しての勉強会の開催。

認知症の理解に対しての勉強会の開催。

地域行事への参加

地域住民との災害時の連携相互協力の確認

地域の在宅高齢者の状況把握や相談を受ける機会を提供。

④認知症グループホームに他の事業を併設する理由（主な回答）

地域のニーズに応じるため。

世代を超えた交流がお互いに良いものをもたらすため。

グループホームの入居者以外との交流時間をもつことができ、有意義な時間を過ごすことができる。

公募条件だったため。

閉鎖的にならないようにするため。

単独施設だと経営が難しいため。

⑤小規模多機能施設に他の事業を併設する理由（回答数17件）

地域のニーズに応じたため。（1件）

他事業の利用者との交流や行事、レクリエーションが一体的に行え利用者の処遇上効果が見込まれるため。

公募条件だったため。

単独施設だと経営が難しいため。